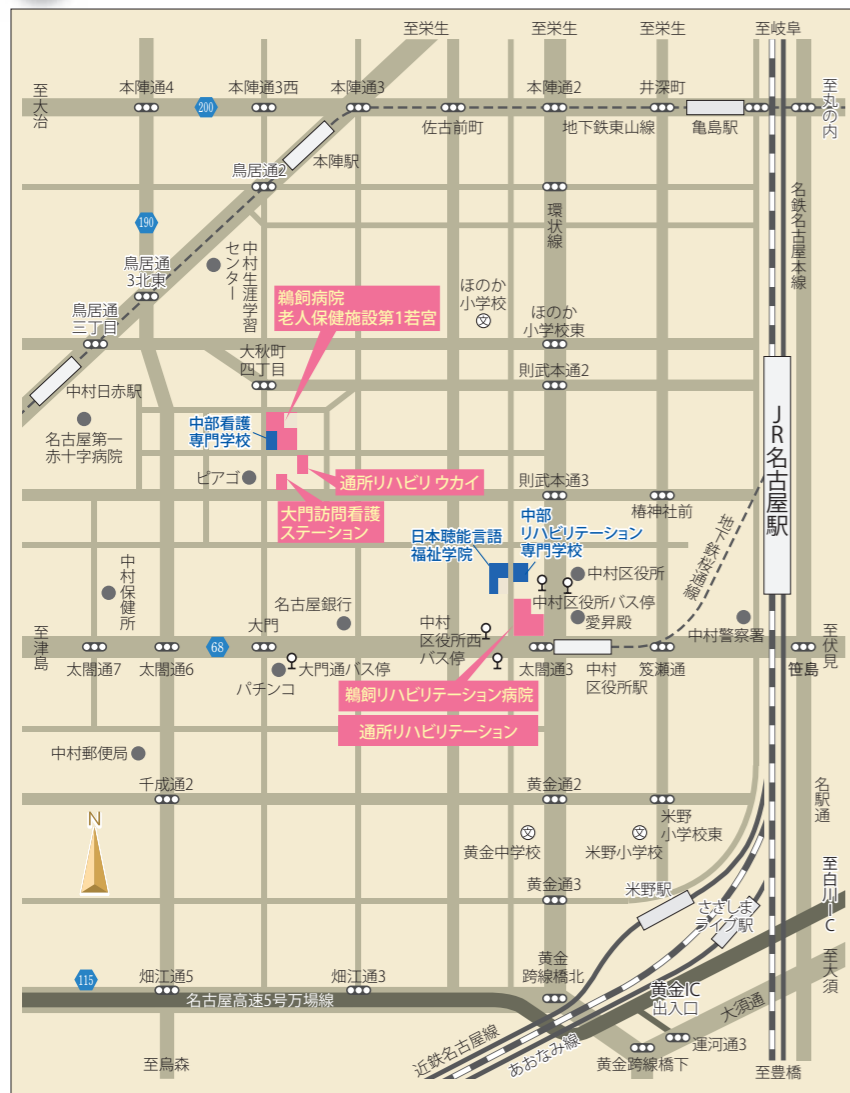


ご案内図



交通アクセスのご案内

- 地下鉄/桜通線「中村区役所」①出口より……………徒歩約1分
- 市バス・名鉄バス/「中村区役所」下車……………徒歩約1分
- JR名古屋駅太閤通口より……………車で約5分
- 名古屋高速道路「黄金」ICより北へ……………車で約5分



当院は、  
医療機能評価  
認定病院です。

医療法人 珪山会  
**鵜飼リハビリテーション病院**

〒453-0811 名古屋市中村区太閤通4-1  
TEL 052-461-3132 FAX 052-461-3231  
Eメール mail@kzan.jp ホームページ <http://www.ukaireha.kzan.jp/>

時代のニーズに応える  
珪山会グループ

**鵜飼 病院**  
TEL 052-461-3131  
FAX 052-461-3136  
名古屋市中村区寿町30

**老人保健施設 第1若宮**  
TEL 052-461-3175  
FAX 052-461-3136  
名古屋市中村区寿町30

**鵜飼リハビリテーション病院**  
TEL 052-461-3132  
FAX 052-461-3231  
名古屋市中村区太閤通4-1

**通所リハビリテーション**  
TEL 052-461-3237  
FAX 052-461-3238  
名古屋市中村区太閤通4-1

**通所リハビリウカイ**  
TEL 052-461-9195  
FAX 052-461-3107  
名古屋市中村区寿町6-1

**大門訪問看護ステーション**  
TEL 052-471-2533  
FAX 052-485-9702  
名古屋市中村区大門町30

**中部リハビリテーション専門学校**  
TEL 052-461-1677  
FAX 052-471-2333  
名古屋市中村区若宮町2-2  
<http://www.chureha.kzan.jp/>

**中部看護専門学校**  
TEL 052-461-3133  
FAX 052-483-0873  
名古屋市中村区寿町29  
<http://kango.kzan.jp/>

**日本聴能言語福祉学院**  
TEL 052-482-8788  
FAX 052-471-8703  
名古屋市中村区若宮町2-14  
<http://ncg.kzan.jp/>

鵜飼リハビリテーション病院  
ハートフル情報誌  
ReHappy!  
Vol.68

鵜飼リハビリテーション病院 ハートフル情報誌

# ReHappy!

リハッピー

Vol.68

発行人/鵜飼泰光  
発行/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会  
名古屋市中村区太閤通4-1  
<http://www.ukaireha.kzan.jp/>  
編集/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会  
編集グループ  
編集協力/プロジェクトリンク事務局  
発行/令和元年7月1日

【特集】

望む生活を実現するための  
通所リハビリテーション。



医療法人 珪山会  
**鵜飼リハビリテーション病院**

# 望む生活を実現するための 通所リハビリテーション。

鶴飼リハビリテーション病院では、  
通所リハビリテーション施設(デイケアセンター)を併設し、  
退院した方に継続的なリハビリテーションを提供している。  
通所リハビリテーションとは、介護保険で行う生活期<sup>(※)</sup>の  
リハビリテーションである。

今号のReHappy!は、通所リハビリテーションをテーマに取り上げ、  
回復期を経て、生活期に移ってからもリハビリテーションを続ける  
意義について考えてみたい。

※生活期とは、可能な限り自宅で自立した日常生活を送れるよう、  
回復期で得たリハビリの成果を維持していく期間。



通所リハビリテーション 主任  
理学療法士 瀬戸達也

## 短時間で集中的に リハビリテーションを提供。

鶴飼リハビリテーション病院の6階には、院外から通  
う人のための通所リハビリテーション施設が開設されて  
いる。広い室内には、筋力・体力の向上を図るためのさ  
まざまな運動器具がズラリ。利用者さんは、それぞれの  
リハビリテーションメニューに沿ってマシントレーニング  
に励んだり、スタッフと一緒に動作の練習に取り組んで  
いる。

ここは、リハビリテーションに特化した短時間通所  
リハビリテーション施設。一般的なデイケアのようなレク  
レーションや入浴、送迎などのサービスは行わず、短い時  
間(ご利用者一人あたり約90分)で、リハビリテーション



を集中して提供している。担当する職員は専任の医師1  
名、理学療法士6名、作業療法士2名、言語聴覚士1名、  
リハ助手4名、事務職員1名と充実した陣容だ。

利用者さん一人ひとりに提供されるのは、どんなサー  
ビスだろうか。通所リハビリテーション主任の瀬戸達也  
(理学療法士)に話を聞いた。「利用者さんが来られると、最初  
に血圧の測定や痛みなどの確認  
をします。そこで何か気になるところがあれば、専任の医師が診  
察します。問題がなければ、セラ  
ピストによる1対1の個別リハ  
ビリテーション(約20分)を実施。



関節を動かす運動や筋力をつける運動は理学療法士、  
日常生活の動作練習は作業療法士、高次脳機能障害や  
失語症などに対する練習は言語聴覚士が担当します。  
残りの時間は、マシン  
を用いて筋力や体力  
をつける自主トレー  
ニングをしていただい  
ています。自主トレー  
ニングでは、リハビリ助  
手と一緒に歩  
行や立ち上がりの練習をしたり、4~5名のグループに  
なって手足の運動や認知症予防の体操を行うこともあり  
ます。とにかく体を動かす時間を多くとり、日常生活に必  
要な筋力や体力を維持できるようサポートしています」。



## リハビリテーションの目的は、 生活のなかで「何がしたいか」。

利用者さんのリハビリテーションメニューは、疾患や  
状態に応じて多彩に設定されている。そのメニューを決  
めるのが、<リハ会議>である。ここには医師をはじめ、  
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ケアマネジャー、  
介護サービス事業者、ヘルパーなどの多職種が院内外か  
ら一堂に集結。利用者さん  
と家族の話を聞きながら、  
さまざまな専門家が異なる  
視点から意見を出し合う。



副院長 鄭 統圭

通所リハビリテーション  
の専任医である鄭 統圭医  
師(鶴飼リハビリテーシ  
ョン病院副院長)は「リハ  
会議で最も大切にしているの

重点的に行っていくか、どんな福祉用具を用いるかなど  
を検討します。回復期のゴールは自宅に戻ることでした  
が、生活期ではその先にある生活の中身に焦点を当てる  
のです」。第1回目の会議は、サービス開始直後に実施。  
その後、1~3カ月に1回程度、継続して開催し、リハビリ  
テーションの内容を調整していく。

また、利用者さんの要望を事前に把握するために、ス  
タッフによる自宅訪問にも力を注いでいる。「基本的  
には、サービス開始の前に、ご自宅に伺うようにしてい  
ます。家の中はもちろん、周辺の街並みもよく観察して、利用者  
さんの生活環境を総合的に把握します。そうしておく  
と、喫茶店に行くにはどの道を歩けばよいかなど、具体的  
なアイデアを提案することができますから」と、瀬戸は話  
す。



## 家に引きこもらず、外出して 運動する習慣を持つことが大切。

同院の通所リハビリテーション施設の利用者数は1日  
50名以上で、月間延べ1,600名ほどが通い、室内は活  
気に包まれる。その人たちの60%程度は、鶴飼リハ  
ビリテーション病院を退院した人たちだ。

この施設の意義について、退院患者を送り出す立場  
の病棟の職員はどう考えているだろうか。3階病棟主任  
の清水裕勝(作業療法士)は「退院後も見慣れた病院に通  
い、必要なリハビリテーションを続けられる安心感があ

と思います」と語り、次のように続けた。「誰でも一旦退院すると、なかなか自発的にリハビリテーションを続ける気にはなれません。その一方で、入院中は毎日2〜3時間行っていたリハビリテーションをやめたら、自分の体はどうなるんだろう、という不安感も持っています。そういう方にとって、ここは運動を継続できる貴重な場所です」。さらに清水は、同院の通所リハビリテーションの特徴について二つのポイントを挙げる。「一つは、送迎サービスがないことです。利用者さんは自力で通わなくてはなりませんから、通うこと自体が運動になります。週に1〜2回通うことで、自然と活



な生活習慣が育まれます。もう一つは、入院中と同じような身体機能の評価を定期的に行われることです。退院後も、筋力や体力を維持できているかどうかしっかり確認できます」。

また、病棟と通所リハビリテーション施設が同じところにあるので、双方のスタッフが顔の見える連携を図れる利点もある。「たとえば、退院した患者さんがその後、どのように練習しているのか私たち病棟スタッフが確認することもできます。また、退院後、当院の通所リハビリテーションに通う予定の入院患者さんに対し、通所リハビリテーションのスタッフが病棟を訪問して、事前にご挨拶をすることもあります。今後は、こうした連携をさらに深めていく必要があると思います」と、清水は話す。



### 楽しく、その人らしく生活できるよう全力で応援。

退院後の身体能力の維持・回復を図るために、通所リハビリテーションでは、訪問リハビリテーションとの

連携にも力を注ぐ。利用者さんが困っている問題に対して、〈通所〉と〈訪問〉の両サイドからアプローチして成果を上げているのだ。瀬戸に、最近のケーススタディを一つ紹介してもらった。「その利用者さんは脳梗塞の後遺症を抱えて退院されました。入院中は入浴できましたが、いざ自宅に戻ると、お風呂にうまく入れなかったんです。そこで、どうして入浴できないかを分析し、〈通所〉では手足の動作を中心に練習。〈訪問〉では実際に家のお風呂を使って入浴の練習をしました。それを続けた結果、やがて問題なく入浴できるようになり、とても喜んでいただきました」。

一般に、生活期では、回復期で向上させた身体機能を落とすことなく、〈維持していく〉ことが目標となる。しかし、このケースからわかるように、「生活期になっても、身体機能や日常生活動作を改善できることはたくさんあります」と鄭医師は言う。「ここに通うことで、生活しやすくなったという方が大勢いらっしゃいます。考えてみれば、入院はほんの短い期間で、退院してからの方が、人生が長い。障害が残っても、もっともつとやれることがあるはずですし、その目標を一緒に探して、実現に向けてコーディネートするのが私たちの役割だと考えています。これからも利用者さんが楽しく生活できるように、全力で応援していきます」。



# For the Best Rehabilitation

## Topic 1

### 脊髄損傷の後遺症を抱えつつ、陶芸教室を再開。

鵜飼リハビリテーション病院の通所リハビリテーション施設では、利用者さんの望む生活を何よりも優先してサポートしている。そうした思いが実を結んだ事例として、ある陶芸家(Aさん:80代男性)の社会復帰を紹介したい。

Aさんの疾患は脊髄損傷。入院前は陶芸家として活動し、陶芸教室を主宰していたが、手のしびれなどの後遺症が残り、陶芸教室の継続は難しい状況だった。しかし、何とか陶芸教室を再開したいと、Aさんは同院の通所リハビリテーションに通い始める。そんな思いを受けた担当



の作業療法士と鄭医師、瀬戸は、陶芸に必要な手の機能の練習、ストレッチを中心にメニューを

組み、粘土をこねるといった実際の陶芸作業など、家で行う練習も段階的に取り入れていった。また、奥様にも家で行うストレッチ方法を伝え、協力を仰いだ。鄭医師は当時を振り返ってこう話す。「最初の半年間は、月1回、リハ会議を開き、そのなかで、Aさんの思いを確かめながら、背中を押していきました。痛みや疲労から陶芸教室の再開に消極的になる場面もありましたが、だんだん本人もやる気を高めていき、最終的には陶芸教室を再開することができました」。Aさんは今、以前のように生き生きと陶芸に向き合っているという。

このケーススタディは、目標を持ってリハビリテーションに励めば、やりたいことを決して諦める必要はない、ということを示している。こうした生活の夢の一つでも多く叶えるために、鄭医師たちの取り組みは続く。

## Topic 2

### 外出の機会を作り、交流を深めるイベントを開催。

通所リハビリテーション施設では昨秋から、希望者を対象にしたお出かけイベントをスタートさせた。第1回目の行き先は、名古屋市西区にあるトヨタ産業技術記念館。古い蒸気機関などが展示されていて、子どもから大人まで楽しめる施設である。利用者さんの移動については、現地集合・現地解散。博物館を見学した後、30分ほどみんなでお茶を飲みながら談笑した。

このお出かけイベントの目的について、瀬戸は次のように話す。「利用者さんが病院と家の往復だけでなく、違う場所に出かけられる機会を作りたい、というのが最初の思いでした。障害を持って退院した人は、どうしても出かける機会が減り、家に閉じこもりがちになります。こうしたイベントを利用することで、外出の楽しさ、他者とコミュニケーションする喜びを取り戻してほしいと考えました」。

第2回目のお出かけイベントは、今秋に開催する予定で、今、候補地を選択しているところだ。今後も年2回程度の頻度で、継続して開催していく計画である。



# 珪山会グループからのお知らせ

# Support Party!



## 鵜飼病院

地域に密着した病院として、患者さんやご家族を支えます。

当院は、地域に密着した病院として近隣の病院や診療所と連携を取り、患者さんにとってより快適な入院診療・外来診療を提供できるよう努めています。急に体調が悪くなられた方や、救急車の受け入れにも対応しており、整形外科手術も行っています。

また、患者さん、ご家族の「自宅で生活を」という気持ちにお応えできるよう、リハビリテーションにも力を入れています。法人内外の居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等の介護保険サービス事業所と協力し、患者さんのご自宅での生活を支えます。



### 施設概要

リハビリテーションを中心に医療・福祉活動を展開しています。最先端設備と人に優しい環境を整え、患者さん一人ひとりを支えます。

診療科目：内科・神経内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科

病床数：120床（一般病床30、地域包括ケア病床30、療養型病床60）

外来受付時間

月～金曜日 9:00～12:00 / 15:30～18:00

土曜日 9:00～12:00

休診日 日・祝

※在宅医療サービス、介護保険サービスも行っています。

## 鵜飼リハビリテーション病院

■通所リハビリテーション（1～2時間）

利用者さんの状態に合わせ、専門スタッフがリハビリや運動を実施します。



介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）で、1時間30分の短時間型通所リハビリを提供しています。病院を退院した後、安心してご自宅での生活が送れるよう、専門スタッフ（理学療法士）が利用者さんの状態やニーズに合わせて、個別リハビリ（20～40分）や機械を使つての運動（40～50分）を実施します。

また、平成24年から、要介護者の方に限りお宅への訪問を始めました。実際の生活現場で情報収集を行うことで、解決が必要な課題を明確にし、より充実したリハビリを提供できるよう、スタッフ一丸となりサポートしています。

### 施設概要

利用者さんの状態に合わせ、20～40分の個別訓練と1時間程度の自主訓練で体力や基本動作能力の維持・向上をはかります。

対象：要介護・要支援認定の方

ご利用日：月・木・火・金・水・土（祝祭日を含む）

ご利用時間：午前 9:00～10:30 / 10:30～12:00  
午後 13:00～14:30 / 14:30～16:00

サービス内容

- 筋力増強訓練や関節運動など
- 食事・排泄・更衣・入浴など日常生活動作
- 在宅環境の整備
- ホームプログラムの指導 など

※食事・入浴・送迎はありません。

## 通所リハビリ ウカイ

■通所リハビリテーション（1～2時間）・（3～4時間）

病院でのリハビリと同等のリハビリの提供に努めています。

介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）です。利用者さんの状態やニーズに合わせ、医師やリハビリ専門スタッフがサービスを提供します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を配置し、病院でのリハビリ（医療保険）が終了となった場合でも同等のリハビリを提供できるよう努めています。

日常生活での動作獲得やコミュニケーション能力の向上等をめざし、身体機能や筋力の維持・向上がはかれるようプログラムを立案。個別リハビリ、機器での筋力強化やマッサージ、物理療法の低周波やホットパック等を行います。



### 施設概要

体力や基本動作能力の向上をはかりたい方を対象に、20～40分の個別訓練と1～3時間程度の自主訓練を行います。

対象：要介護・要支援認定の方

ご利用日：月～金曜日

（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：午前 9:00～12:30

午後 13:30～17:00

サービス内容

○3つのコースと利用者に応じた個別リハビリテーション

○健康状態の確認（メディカルチェック）など

※食事・入浴・送迎はありません。

## 老人保健施設 第1若宮

■通所リハビリテーション（6～8時間）

利用者さんの笑顔が職員の励みです。



第1若宮では、年間を通して、節分や夏祭りなど季節に合わせた行事のほか、お花見や遠足などの外出行事を実施しています。

行事では、機能訓練や認知症の進行予防の援助も取り入れながら、利用者さんが、ご自分の能力に合わせて楽しんで参加していただけるよう配慮しています。

利用者さんが行事で見せてくださる笑

顔が、職員の励みになっています。これからも、一人でも多くの利用者さんに、楽しんで参加していただけるような行事を企画していきます。

### 施設概要

介護を必要とする方を対象に、心身機能の維持・向上のためのリハビリを提供するとともに、入浴・食事・送迎サービス等も行います。

対象：中村区にお住まいの要介護認定の方

ご利用日：月～土曜日

（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：9:50～16:10

サービス内容

○理学療法士、作業療法士によるリハビリテーション

○日常生活の援助

（健康状態の確認、入浴・食事の介助等）

○在宅生活における各種相談

## 大門訪問看護ステーション

短期間の利用も可能。退院後の不安を取り除きます。

「退院後すぐに体調が悪くならないだろうか」「自宅でどんな運動をすればいいのだろうか」「トイレやお風呂の介助がうまくできるだろうか」など、退院後の不安はどなたもお持ちだと思います。

当ステーションでは、退院前のリハビリ見学等を通して入院スタッフからの情報収集を実施しており、退院後、看護師やリハビリスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が週1～2回程度訪問して、ご本人の状態や環境に合わせた指導・援助をしています。退院後から生活が落ち着くまでの短期間利用も可能です。



### 施設概要

看護師、リハビリスタッフがご自宅に訪問し、利用者さんやご家族が安全・安心に暮らせるよう、在宅生活を支援します。

営業日時：月～金曜日 9:00～18:00

（祝祭日、年末年始を除く）

サービス提供地域：中村区・西区・中川区

サービス内容

○健康状態・病状観察

○日常生活の支援

○医療処置・カテーテル管理支援

○在宅リハビリテーション

○看護・介護・住宅改修・福祉用具の助言、相談 など

※ご利用にあたっては医師の指示書が必要です。ステーションにお問い合わせいただくか、ケアマネージャーにご相談ください。

※看護師の24時間対応。